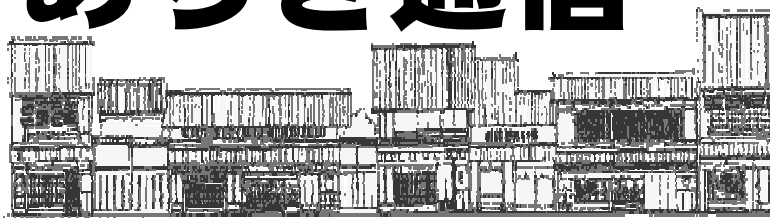
第 23 号（ 2016 年 12 月号）

2016年 １２月１５日発行

あらき通信



(株)アラキ工務店　編集・発行　村上 幸男

〒615-0906 京都市右京区梅津高畝町 52-2

Tel 075-882-8668 Fax 075-872-0223

http://www.kyoto-araki.jp/

info@kyoto-kozai.com

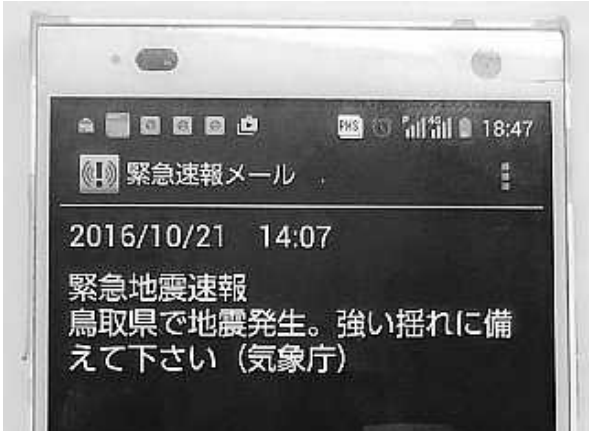
地震が頻発しています 緊急メール速報にアタフタしました

鳥取地震の時でした。10 月 21 日午後 2 時過ぎに携帯にメールが入り警報音が鳴りました。

その時、私はお客様宅で打合せ中でした。「え、何の音？」と一瞬頭が働かなくなり、すぐにメールを見たのですが、それと同時にグラグラと揺れて、「あ、地震だ！」と言ったきり動けませんでした。なかなか機敏に避難できません。

この緊急速報メールは、震源地近くで地震のＰ波（Primary Wave 最初の波：縦波）を感知した瞬間、全国の警報装置に連絡が入りＳ波（Secondary Wave 第二の波：横波）についての警報を出すシステムです。Ｐ波の伝達速度は 7km／秒でＳ波の伝達速度は 3.5km／秒。その差があるので遠隔地では警報が出せるシステムですが、今回は、震源まで２５０km と短く 1 分強ほどで地震がありました。

まず何の音かわかるまでが５秒近くかかり、メールを読んで理解するのに 10 秒程度。どっちが玄関かとっさにわからずキョロキョロして 10 秒。行動起こして玄関口まで出るのに 15 秒。さて、外に出て危なくないか周囲を見て判断するのに更に１０秒程度かかります。それでギリギリ体制を整えて地震に備えられますが、もっと震源が近いと行動中に揺れて外にも出られない。ナカナカ難しいです。



建物の柱を取り替えたり、歪みを直したりする作業が増えているので、万一作業中に地震があったらと考えると怖くなりました。今一度、防災意識を見直したいと思っています。

最後になりましたが、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。皆さまの安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。　荒木 勇

工場の加工が間に合わない

無垢材を使う現場が多く、化粧材は、大工さんが注文書を出して工場で加工する事になっています。しかし、最近量が増え２週間待ちという事も。大工さんから「これではかなわん」と声が出て、交代で現場を空けて、何とか平常に戻しました。嬉しい悲鳴ですが大変でした。大空工場長、ちょっとパニックになっていましたが、大分元気になりました。

10 年前に造った土塗り塀の修繕改修工事です

塀の角部分に観光バスが当たり、瓦と塀の一部が破損してしまいました。
自転車の擦り傷や残念な落書など、汚くなっている部分も併せて修繕を行いました。

まず、１０年前の工事の写真を見ていただきます。元々短かった長屋門からの塀を、敷地を囲うように延長しました。元々は中まで土で造ってあるのですが、膨大な時間と費用がかかります。そこで、ブロックにて骨組みを造り、それに土塗りを施して土塀に見せる方法を取りました。とはいえ、ブロックはまず垂直に積み、それにもたれる様に斜めに積まなければならないので、芸が細かい方法です。

最初に土台を造ります。表面のみ石を並べますが、土台そのものはコンクリートで造ります。

その上にブロックを積みます。瓦を載せるための台も同様です。

最初に瓦の下にある台輪と呼ばれる部分を土で塗り、これが乾いたら壁も土で塗り上げていきます。

切れ目がない作業なので、５～６人もの職人が一列に並び、一斉に塗りました。５ 月でお天気もよく、皆でワイワイ言いながら楽しそうだったのを覚えています。

竣工式典の直前に完成したのですが、夜になるとフットライトが点灯し、凄くよい感じになりました。

--- --- ---

ある日、オーナーの秘書さんから連絡が入り、事故があったということで、現地に行きました。ボロボロに崩れているかと思いましたが、塀はしっかり建っていて瓦の隅や棟まわりと土塀の仕上がめくれていましたが、芯のブロックは全く壊れていませんでした。

しかしながら、土塀がキズだらけ(T_T)。近所に子供が多く、アイアイ傘やよくわからない絵が続いてます。あっ！キノコも！ 土を見ると触りたくなる気持ちもわかりますが、少し我慢してほしいです。

協議の結果、事故対応とあわせて、全体を塗り替え、表面は漆喰塗にみえる硬い仕上材に変更する事になりました。

まず、塗り部分を全て囲うように足場を組みます。瓦は取り替えるだけなので簡単ですが、台輪と塗壁部分は表面の土を全てこそげ落とします。ブロック面の上に塗ってあるセメント部分までです。

この後、荒付と中塗２回をモルタルにて作業します。上塗りの下地まで作業したら、足場にシートを掛け、通行する人が触らないように用心します。

この上から真白の上塗材を塗りつけます。かなり硬いのですが、見た目は漆喰と遜色ありません。これで、例え傷がついても、補修は比較的簡単にできるようになりました。

暫くはきれいなままでいてほしいものです。

村上

おばんざい屋さんを改修しました！

先斗町ますだ

中京区先斗町四条上ル下樵木町 202　℡075-221-6816

1952（昭和 27）年創業。

ミシュラン 2016 にもビブグルマンとして登録されたおばんざいの老舗です。

ご縁があり、今夏、１F と先斗町側の外観を中心に、全面改修しました。できるだけ昔の面影を残したいというオーナーの要望を受け、カウンターのレイアウトや天井の意匠など、新しい中にも懐かしさがある、そんなお店になったと思います。人通りが多く、店舗がぎっしりなので、担当した松井くんには本当に苦労をかけました。

雨が長く続いたので、工期がギリギリになりましたが、間に合ってよかったです。贔屓客には文化人も多く、中でも司馬遼太郎は新聞記者時代からの常連だったそう。みなさんも、是非一度訪問してみてください！

各 現場監督から 皆さんに一言

■ 腰窓(出格子)スペースの有効活用 ／ 米沢

昭和初期型の京町家では、腰から下が左官研ぎ出し仕様で、その上に格子窓が付いている場合があります。

お施っさんの希望で、オモテの間が書斎になるため、窓の手前にカウンターを設置してほしいとの要望をいただきました。

しかしながら、窓手前の人見梁が中央部分で少し垂れていたので補強柱を建てざるを得ないのですが、先に建てると、カウンターが柱の向こうに入りません！　それで止む無く梁を仮受けした状態で設置することになりました。大工さんにとっては、一手間も二手間も掛かかるのですが、これも綺麗に仕上げるための努力と思って工夫しています！

■ 古民家下屋 雨仕舞の工夫 ／ 小野

現在、玄関２階部分を改修中。

まずは瓦工事。既存の瓦を全て撤去。外した小瓦は全て再利用する予定なので、一時的に倉庫に保管。今回の改修で、土葺きから桟葺きへと変更するので、下屋を圧迫していた葺土は全て撤去処分となった。

続いて木工事。木樋斗を新設。既存では木樋斗は施工されておらず、水仕舞が悪く、雨漏りの原因ともなる。元の意匠に逆らう事にはなるが、今回は建築の保全を優先。

最後に左官工事。既存の漆喰壁を全て荒壁まで剥離。荒壁が露になった状態から、際詰め、中塗り、漆喰仕上げと工程を進めてゆく。

築 100 年以上の古民家。あと、数週間で建てられた当時の面影が蘇る。

■ 完成間近のゲストハウス ／ 松原

京都駅から歩いて数分の所にある京町家を改修しています。テナントが入れ替わる過程で通りに面した外壁が１mほど増築されていました。通り柱が切断されていたり、屋根の雨漏がシロアリをよんで梁が喰われていたり、解体されてやむなしと思えるくらい傷んだ建物でした。

初期投資がかかりますが、近年のゲストハウスブームで十分回収できるそうです。このように大きく傷んだ町家でも蘇らせたいという要望が増えています。

住まいについてのいろいろな話し　第 19 回

木造建築でよく使う天然塗料としては、昔からベンガラと柿渋をよく使います。（漆は化粧材の仕上に少量使う程度なので除く）

石油化学技術の発達により、アクリル塗料やフッ素塗料が出だしてからは、一般住宅ではあまり使われなくなりました。京町家や古民家の改修で使われることが多いです。

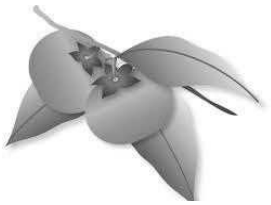
● ベンガラ

成分は酸化第二鉄。現物は鮮やかなピンク色で水溶性。水に溶かし、よくよく混ぜてダマを作らないようにします。色付には松煙墨を使うのですが、簡易に玉墨にすることもあります。本来、ベンガラは濃い黄赤色です。これに墨を混ぜると赤黒くなり、たくさん混ぜると黒色に近づいていきます。少量ずつ混ぜて想定の色になるまで入れていきますが、分離する性質があるので、かなり念入りに攪拌しなければなりません。

塗り方は、刷毛で塗って少し乾いたら布切れでふき取り、これを繰り返していくと布切れにベンガラがしみこんできます。その後は、直接布切れでこすりつけていけば簡単です。但し余分な塗料はふき取り、そのまま３日ほど乾燥すると乾くので、再度新しい布切れで表面に浮いている余分なベンガラをふき取ります。この上から菜種油（不乾性油）を布切れに染み込ませ、油を柱に摺り込むように２回塗り付けます。これで 10 日近く乾燥させて出来上がりですが、乾燥が悪いところはベニガラや油が手や服につきます。手間暇がかなりかかり、簡単ではありません。その割には雨に当たるところでは 5～7 年ほどしかもたないので、皆さん化学塗料にしてしまったのです。ただベンガラ塗りの風情は化学塗料ではナカナカ出せない味です。

なお、ベンガラと松煙にある種の植物性樹脂が混ぜてあり、24 時間程度で完全に乾く商品があります。どんな植物性樹脂かは企業秘密なので教えてくれません。

● 柿渋



未熟の柿の実をとり、果汁を絞り発酵熟成させたもので、塗料や染料に使ったり和紙に塗ったりします。和紙に塗るのは硬くなるので紙の強化対策です。柿渋には熟成度により 1 年ものからかなりの年数物まであり、熟成させるほど高額になります。

原液は薄いピンク色で、熟成物は濃いピンク色です。刷毛で塗りますが、塗っても色は着かず、無色透明ですが、かなりの臭いがあります。勿論柿の腐敗したような匂いですが、乾けば無臭です。

柿渋は塗った直後は透明だが、タンニンという成分により、時間とともに茶色になり、濃い色へと変化していきます。普通 2～3 回程度ですが、4～7回塗る事もあります。塗り重ねる回数が多くなるほどタンニンが多く付着して濃い色になります。目印を忘れていると、ちょっとトイレに行って帰ってきたら、どこまで塗ったか分からない。ここだと信じて塗ると、同じところに何度も塗っていることになり、後日見に行くと、ものすごいまだら模様になっていたりしますが、時間がたつとだんだん熟れてきて、それほどでもなくなります。ま、それが柿渋塗りの味わいです。不揃いの良さですね。

天然素材所以の塗料はやはり耐候性が悪いとか、磨耗に弱いとかいろいろな欠点があるので、それを十分知って使わないと後で悔やみます。そんなに全て良いのなら廃れることはないのですから。　村上

■住宅省エネルギー技術施工技術者講習会に参加して（平成 28 年度省エネルギー基準対応）

来年 29 年 4 月から、300 平米以上の新築木造住宅にも、建築物省エネ法の届出が必要となる予定です。平成 32 年位から、300 ㎡未満の場合にも適合義務が課せられる予定だそうです。

今回は、施工の講習会でしたが、たくさんの大工さんが来られていました。断熱工事には、断熱層と防湿層が大切と知りました。

外壁に面する内壁に、吊り棚や時計をビスや釘で壁につけると防湿層に穴が開きます。ここから湿気が壁に入ります。これは良くないので、本当は柱や間柱に打たないといけないことになります。好きなところに、つけられなくなります。ちょっと困りますね。　荒木 智

蔵の庇の持出しの役物塗り

これは蔵の窓庇を支える持ち出し。解体前に型取りをしておき、それに基づいて同じ形に飾り塗りを復元しています。大変手間と時間がかかりますが、これを簡単にすると蔵の見栄えが、もうひとつという事になりかねません。

予算との関係で省略したいのをぐっとこらえて工事をします。

9月から入社した安田 晶紀（あきのり）です

職種は植木工事と外構工事全般を担当してもらう予定です。松本君が 2 年前に定年になり現在は引続き仕事をしてもらっていますが、本人から来年の 12 月で終了したいという希望があり、急遽安田君に入社して頂き後任を任せる事になりました。現在は松本君に同行し、いろいろと仕事を覚えてもらっている状態です。宜しくお願い致します。

本人から

今までは造園専門の会社で仕事をしていましが、ご縁があってアラキ工務店に入社致しました。

松本さんのように何でも出来る様に、今は修行中ですが、そのうち一人でお伺いします。宜しくお願い致します。

ホームページのお引越し

来年１月末で ZAQ がホームページサービスを中止することになりました。監督さんたちのブログも一部お引越しします。

お気に入りの変更をお願いします！

旧：http://www.kyoto.zaq.jp/araki/

新：http://www.kyoto-araki.jp/

編集後記

2020 年東京オリンピックの誘致が決まってから、施設の建設費が高い安いと毎日話題になっています。これからの実施設計で詳細が決まりそれて初めて総金額が出るらしい。おそらく新規の競技場を作る概算見積もりは、過去の似た案件を下敷きにしてそれの何倍かが基本となり、新工法に新材料だから何百何十億、それにあれとこれを足して何十億、資材値上がり分見越して×20%と言った積み上げ方なのでしょう。あくまで私の想像です。大規模事業では、終わってみれば見積もりの何倍にもなっていたなんてよくある話です。当初の見積もりは図面等に沿って頭で考えたとおりに出来ればの話で、実際はそううまくはいきません。想定外の予算が必要なのは当たり前で、人間が考える以上の不測の事態があり、それに対して費用がかるのも当然なのでしょうが、なかなか着地点が見えませんね。　村上